

病害虫発生予察特殊報(第4号)

平成17年12月2日
神奈川県病害虫防除所長

病害虫名：トマト黄化葉巻病
病原ウイルス：Tomato yellow leaf curl Virus (TYLCV)

作物名：トマト、ミニトマト

1 発生経過

1 発生経過

- (1) 平成17年11月16日に県内で栽培されているトマト苗(自家育苗)で、生長点付近に葉巻症状が見られる苗が数本発生し、病害虫防除員を通じて当所に持ち込まれた。
- (2) 農業技術センターにおいてPCR検定及びPCR増幅産物の塩基配列の解析により、Tomato yellow leaf curl Virus (TYLCV)の感染が確認された。
- (3) 11月28日に現地を調査したところ、トマト苗でシルバーリーフコナジラミの寄生を確認したが、新たな被害株は見られなかった。施設周辺の雑草にもシルバーリーフコナジラミの寄生を確認した。
- (4) 本ウイルスによるトマトの病害は平成8年に静岡県で確認された後、西日本を中心に1府21県で発生が確認されているが、本県では初めての発生である。

2 病徴

- (1) 本県では上位葉の葉縁からの黄化葉巻症状、頂部の節間が伸張せず萎縮する症状が確認された。
- (2) 他県の報告によると、上記の症状の他に株全体が黄化萎縮する。特に生育初期に感染すると病徴が激しくなる。発病前に着果した果実は正常に発育し収穫できるが、発病後は開花しないか、開花しても結実しないことが多い。



TYLCV被害株

3 病原の性質と伝搬方法

- (1) 本ウイルスはジェミニウイルス属に属し、シルバーリーフコナジラミが媒介する。種子伝染、土壌伝染、汁液伝染はしないとされている。海外では本ウイルスの経卵伝染の報告があるが、日本では経卵伝染は確認されていない。
- (2) 国内で自然感染が確認されている栽培作物はトマト、ミニトマト、トルコギキョウだけである。雑草で自然感染が確認されているものは8種(センナリホウズキ、タカサプロウ、ノボロギク、ノゲシ、

エノキグサ，ハコベ，ウシハコベ，ホソバツルノゲイトウ) があるが、いずれも無病徴である。



シルバーリーフコナジラミ蛹



シルバーリーフコナジラミ成虫

4 防除対策

- (1) 媒介虫のシルバーリーフコナジラミは多くの植物に寄生するので、施設の開口部に防虫ネット（0.4mm 目以下）などを設置し、侵入を防ぐ。
- (2) 施設周辺の除草を徹底し、施設内にシルバーリーフコナジラミの発生源となる植物を持ち込まない。
- (3) シルバーリーフコナジラミを対象に育苗期から収穫終了時まで定期的に薬剤散布を行い、定植時の粒剤施用は必ず行う。なお、本虫については薬剤感受性が低下しているとする報告もあるため、同一系統薬剤の連用は避ける。
- (4) 罹病株は伝染源となるので見つけ次第抜き取り、焼却または土中深くに埋めるなど適切に処分する。
- (5) 収穫終了後は施設を密閉したうえで地際から切断また抜根して蒸し込み処理を行い、シルバーリーフコナジラミを死滅させる。

5 シルバーリーフコナジラミの防除薬剤（トマト）

薬剤名	安全使用基準	倍率	マルハナバチ安全日数
ベストガード粒剤	定植時・1回	1～2g/株（植穴処理）	20～30日
アルバリン又はスタークル粒剤	定植時・1回	1g/株（植穴処理）	10日
ラノーテープ	栽培期間中・1回	10～50平方メートル/10a （作物体の付近に設置）	影響なし
ベストガード水溶剤	前日・3回	1000～2000倍	10～20日
サンマイルフロアブル	前日・2回	1000～1500倍	2日
モスピラン水溶剤	前日・2回	2000倍	1日
コロマイル乳剤	前日・2回	1500倍	-

等

神奈川県病虫害防除所
〒259-1204 平塚市上吉沢1617
TEL 0463-58-0333
FAX 0463-59-7411
テレホンサービス 0463-58-6612
http://www.agri.pref.kanagawa.jp/boujoshu/top.asp